

2026年03月03日（火）【外為L a b】松田哲

タイトル：【米国とイスラエルのイランに対する軍事行動】

2月28日（土）、米国がイスラエルと共に、イランに対して「大規模な戦闘作戦」を開始した。

米国は、今回の軍事行動を「壮絶な怒り作戦」と呼称している。

しかし、これは「戦争」ではないのか？

米国が宣戦布告をせずに戦闘を開始したことは卑怯の誹りを免れない、と考えます。

米国のとったこの軍事行動は、ロシアがウクライナに侵攻したと同じであり、典型的な「ダブルスタンダード」と考えます。

米国には、ロシアを非難する根拠が無くなった、と考えます。

+++++

日本は、今回の米国の軍事行動に関して、明言を避けています。

米国を非難すると、

「その報復があるのではないか？」

「日米の同盟関係を壊すのではないか？」

と付度しているのだ、と考えます。

欧州各国も、積極的に米国とイスラエルを非難することを控えている、と考えます。

日本と同様に、トランプ大統領に付度しているのだ、と考えます。

+++++

今回の米国の軍事行動が、どの程度の期間に及ぶのか、現時点では、全く不明のまま、と考えます。

トランプ大統領が、「4週間程度」と示唆したことが報道されましたが、事実上の戦争状態が、どのくらい続くのか、誰にも事前には分からない、と考えます。

もちろん、トランプ大統領や、その側近、そしてイスラエルにも、想定した期間があるのだらう、と考えます。

しかしながら、そういった思惑通りにはいかない、と考えます。

その点は、相場と同様と考えます。

+++++

米国とイスラエルのイランに対する軍事行動が始まってからの外国為替市場は、概して「ドル高」に推移しています。

いわゆる「有事のドル買い」に動いている、と言って良いのでしょうか。

外国為替市場の値動きは、世界中の市場参加者の総意の表れ、と考えます。

つまり、世界中の市場参加者は、リスク回避のために、基軸通貨である米ドルを買う行動に出た、と考えます。

ただし、それは今回の米国とイスラエルの軍事行動を是認した訳ではない、とも考えます。

世界中の市場参加者は、目先、自分が損をしないように行動したのだ、と考えます。

避難通貨として、米ドルを買ったのだ、と推測します。

そして、米ドル以上に金（ゴールド）に資金が流れていることが明白です。

米ドル以上に、リスク回避ができる資産が、金（ゴールド）である、と判断しているのだ、と考えます。

+++++

米国とイスラエルの軍事行動が開始されてから、まだ時間が経っていないので、そして、この先の対応が不明のままなので、不確実なことが多すぎる状況と考えます。

こういう場合に外国為替取引をする時は、ポジションを通常よりも小さくして、リスクをミニマイズすることがセオリーです。

+++++

今のところ、当事国である米国の通貨、米ドルに資金が流れているのですが、状況の変化に伴い、資金の流れが反転する可能性も否定できない、と考えます。

「天網恢恢疎にして漏らさず」ということわざが中国にあります。

ごり押しすれば、何でもできる訳ではない、と考える次第です。

+++++

(2026年3月3日東京時間13:50記述)